大正四年十月二十五日發行

婦人衛生雜誌

第三百十一號

婦人衛生雜誌

第三百十一號目次

稟告

來る十一月六日例會相開くべきの處、都合に依り休會致すことゝ相成候間此段御了承被下度稟告候也

大正四年十月

私立大日本婦人衞生會

私立 大日本婦人衞生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一年を送らんことを皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれは此生活を得んこといと易からずこれ衞生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も／＼衞生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして特我等婦人のもつぱら當るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相繼て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衞生の事に至りては更に注意を惹かざるものゝ如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衞生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衞生上諸般の講義演說談話を乞ひ互に相研究し向之を筆記して冊子と編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を敍べて廣く江湖の諸愛姉に告げ其賛成を仰ふぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立 大日本婦人衞生會規則摘要

（明治卅一年十一月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を研究し衞生上の智識を開發せしめ以て社會全般の幸福を增進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衞生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條　本會會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の稱號を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す（交付手續は末に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を賛成する者は之を賛成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に賛成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受ることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知すべし死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は返戻せず●第九條　本會に[illegible]●第十條　本會に左の役員を置く、會長一名、副會長一名、幹事若干名、評議員三十名、書記若干名●第十一條　會長[illegible]

[illegible]

[illegible]することあるべし

東京市麴町區富士見町二丁目卅一番地　私立大日本婦人衞生會

講演

齒牙交換期に於ける二三の注意

醫學士 田中貫一

私は今日茲に書いてあります通り齒牙交換期に於ける二三の注意と云ふ事を一寸申上げやうと思ひます。併し私は未だ此齒科學を志しましてから日が淺くありまして、其爲に自分の學識も十分でありませぬ、ですから、經驗も至つて乏しいので、從つて十分な御話をすると云ふ事は出來ませぬが、タヾ二三の餘り世間の人から注意されて居ないが然し甚だ大切なる事柄に就て一寸、御注意までに申上げて、それで御免を蒙らうと思ひます。

一體此齒牙交換期に於ては色々の注意がありますが其一つは此の時期の注意を怠つた爲に、將來に於て齒列が惡くなる、齒列が惡いと云ふ事がヒイテは顏面の形に關係して來ると云ふやうな事があります。又其外に齒列の惡い爲に、いろいろの病氣を起して來ると云ふやうな事があります。此全身に又口腔自身の内にいろ〳〵の病氣を起して來ると云ふやうな事を細かく申ますと長くなりますので、今日は時間がありませぬから、又他日折がありましたなら御話をすると云ふ事に致して、今日は唯齒牙交換期に於ける注意を怠つたと云ふ事の爲めに、將來起るところの齒列の惡くなる事卽ち齒列不正を起し、それが顏面に變化を起して來ると云ふ事になりますからして、餘程齒牙交換期に於て注意をしなければならぬと云ふ事を御話しやうと思ひます。

それで其注意を怠つた爲に齒列が惡くなつて、それそれ

からいろ〳〵の病氣が起つて來ると云ふ事の例を二三申上げれば、齒牙交換期に於て、犬齒ー絲切り齒と云ふやうなものを早く取らずに置いた爲に、後から生へて來る絲切り齒が、直ぐ其上の方とか、其前の方とかに生へて參りましたときに、丁度何等かの原因の爲めに其のとなりの齒が無い樣な時は其の場所へ犬齒が入り込み、爲めに缺けて居つたとなりの齒が將來生へる時は自分の場所のない爲め通常でない處へ生へると云ふやうな不都合が起つて來ます。又齒牙交換期に於て前臼齒卽ちオク齒を早く拔き去つてしまつたと云ふやうな事から、上の方の齒に付て申しますれば、上の齒が段々前へ出て來て外齒とか出齒とかになる。下の方ならば、下の顎が出て來て顏面が變んな形になる。さう云ふ例が澤山あるのであります。で其時代の注意が大變に必要であります、で本論に入りまして齒牙交換期の注意と云ふ事を申上げる前に、一寸齒の生へて來る狀態と、出來まする狀態と云ふやうな事をお話して、それから交換期の注意に移らうと思ひます。

齒と云ふものは、私達が母の胎内にありまして二ケ月經ちますと云ふと、我々の齒の生へて居る場所に相當するところに於て、……上皮細胞と申しまして口の中の粘膜の一番上を覆つて居る細胞が澤山密集して參ります（圖を示す）之れが其下の組織卽ち結締組織と云ふ組織の中へ入り込んで行きます、すると此方からも細胞の密集が生じて來まして、そして上皮細胞の密集したものと一緒になつて一つの齒の土臺をなして參ります。かう云ふ風になつて齒の土臺がそこに出來るのであります。で其齒の土臺は一組でなく二組出來るのであります。御承知の通りに一組は小兒時代の齒の土臺で、他の一組は拔け代つて生へる齒の爲めのものであります。斯して出來た齒の土臺は段々に發育しまして、母の胎内から出て半年程經ちますると下の前の齒が二本現れて來ます。それから二三週間遲れましてそれに相當する上の齒が出て來ます。段々に兩側の前齒が生へる、都合八

本になる、恰度一年經ちました後には八本前齒が出來る事になります。そして一ヶ年四ヶ月で第一の奥齒が出來、一年と八ヶ月經ちまするさ犬齒卽ち絲切り齒が生へて來ます。生れてから恰度二年程經ちまするさ其次の奥齒が生へて來ます、ですから二年程經ちました子供は全體の齒が揃つて仕舞ふ譯であります。上下で都合二十本の齒があれば普通の齒を有つて居る子供さ云ひ得るのであります。此の時代の齒を吾々の方では乳齒と申します。此時代にもいろいろの變化が起つて來る事がありますけれども、それはきわめて稀れでありますし、又大した價値はありません故茲ではそれは申上げません。

それから此の乳齒は……六歳になる頃までは無事で居ればいろ／＼の物を食べたり何かするの用をなして居るのであります。而して六歳頃から私の今御談する齒牙交換期が始つて來るのであります、卽第一の變化と致しましては六歳の終り頃になりますと、今迄ある乳齒の一番奥の齒の後に一つの大なる齒が生へて來ます、六歳の頃に生へまするから之を六歳臼齒と申します。此齒は若い時分に生へまするので拔け替る齒だと思つてお居でになる方が澤山あるのですが、是は拔け替らない齒でありまして、此齒が人間の齒の中で最も大きく最も丈夫な齒で、又最も必要な齒であります。併し是がよく齲齒に罹りましてなくなる事が多いのであります。私が本年大學で大學生の體格檢査を致しました時に、六歳臼齒の滿足に殘つて居る人は殆どないと云ふてよい位でありました。又毎日の大學病院の外來の患者を見ましても、六歳臼齒の滿足にあると云ふ人は餘りない樣であります。どう云ふ譯でさうなくなるかと云ふと、若い時分に生へるものですから、拔け替るからと云ふて注意を怠つたと云ふ事が大變原因するものであらうと思ひます。獨逸のプライスウェルクと云ふ先生は此の齒は若い時分に生へるので組織が弱いのであると申して居りますが、さう云ふ事もあるかも知れませぬが、多くの場合、拔け替ると思つて注意

をしないのが非常の原因である。で六歳の終りに此六歳臼歯と云ふのが生へる、そして六歳、七歳、八歳、九歳頃までの間に前歯と申しまして前の歯が抜け替る、九歳から十一歳までの間に第一の小臼歯と云ふのが生へて來ます。十一歳から十三歳頃の間までに第二の小臼歯が生へ、それから絲切り歯＝犬歯が生へるのであります。そして十三歳から十四歳までの間に一番奥の六歳臼歯の後の歯が生へて來ます十八歳頃から二十五歳までの間に俗に申しまする親知らずが生へます此の抜け替つた歯を永久歯と申します。で歯牙の交換期が當然に行けばそれで終る譯である。それから序に申上げて置きますが、交換期の年齢と云ふやうな事は、大體平均して申上げた年齢でありまして、多少一年か二年の違ひはあるのであります、其外女の子は男の子よりも四ケ月二分の一位早く抜け替り、金持の者と貧乏人とは、金持の人は貧乏の人より早く替る、又田舎の人は都會の人よりも遲く抜け替ると云ふやうな事があります。それで今申上げた通りに歯牙の交換期が行はれますれば何の事もなく心配もないのでありますが、人間の體と云ふものはさう規則通りに行くと云ふ事は出來ぬばかりでなく、時としてはいろ／＼の病氣が起りいろ／＼の原因がありまして、これが變つていろいろの成行を取ると云ふ事がある。そこで此歯牙交換期に於ける注意が必要になつて來るのであります。

今其例を申上げますると此交換期の注意を怠つた爲に、上の前歯が大變に前の方に出て來ると云ふと、之を正面から見たよりも横から見ると著しく、又正面から見ても頬が平つたくなつて顋が後ろの方へ引込んで（圖を示す）そして顔の下半分が變な形になつて大そう貧弱に見えます、さう云ふやうな場合を我我の方では「プログナチイ」と申します、又之れに對して「プログニー」と申しまして顋が大へん前の方へ出て、上の口唇が貧弱に見へるのもあります。

以上申上げたのは甚だ著しい例でありまするが、もつと輕度の場合には、口を閉ぢて居れば解りませ

ぬが、笑ふとか話をするとかすると齒が捻じれて居つたり、或は大變に上の方に離れて居つたり、大變に重り合つたりして居るのはよく見る現象であります。かう云ふ事はそれ自身でも餘りよいものでもありませんし、惡い齒列びを持つて居りまするといろいろの弊害が起つて來るのであります、それは齒列が惡い爲に口の中を清潔にすると云ふ事が出來惡くなつて來ます、其爲にいろ〳〵の變化が起つて來ます、そして齲齒が起る。齲齒と云ふものは黴菌と云ふものゝ爲に起るのでありますが、齲齒を起す黴菌のみでなく、齒列がわるい爲めに齲齒が起り其の中には其外いろ〳〵の黴菌が發生致します、殊に恐ろしいのは結核の黴菌と云ふやうなものが澤山發育して來ますと、其爲にそれから結核の黴菌が體の中の方へ入りますと例へば(圖を示す)頸の所の腺が腫れてグリグリが出來ると云ふやうな事が起つて參ります。其他口を清潔にして置かないと胃腸を害するとか、全身の發育の妨げをすると云ふやうな障碍が起つて來ます。是は此前に島峯博士の御話がありましたから詳しい事は申しませんが、口腔内自身に於ても口内炎であるとか、齒と齒齦との間に膿が出來ると云ふやうな病氣が起つて來ます、又齒列不正の爲めに常に口で呼吸をする爲めに鼻の方が惡くなつて來る、すると延いてはそれが腦の方へ及ぼして來て終に體質並に智力の發育を妨げ或は言語＝言葉に障碍をして來る事があります。で兎に角斯樣にいろいろな事に變化を生じて參ります故に餘程注意なさらぬといかぬと思ひます。

それでは此齒牙交換期に於て注意をすれば、かう云ふやうないろ〳〵の變化を少くするとか、防ぐ事が出來るかと云ふ問題になつて來ます。齒牙交換期に於て無論人間の力に及ばぬ事がありますが、我々の防ぎ得る事も澤山あるのであります。で防ぎ得る事に對しては我々は十分に努力して防がなければならぬと思ふのであります。交換期に於て一寸した事を防ぐと云ふ事は何でもないが、それを防がないで居

ると大きな結果を持ち來す。獨逸の格言で Kleine Ursache, Grosse Wirkungen と申しまして、つまり小さな原因が本で大變大きな結果を持ち來す事でありますから、此期に於て御子樣を御持ちになる方は餘程注意をしなければならぬと思ふのであります。では總べての變化を防ぐ爲にはどうするか、齒牙交換期に於て不注意から起る色々の變化は始めに申しましたから、今度はどう云ふ方法を以つて防ぐかと云ふ事に就てお話しやうと思ひます、其れを御話する前に、齒列不正を來たす原因を先づ明かに致しておかうと思ひます。

齒列不正を來す原因はいろ／＼ありますが、防ぎ得る方法として二つの原因を申しますと、其原因は齒牙交換期に於て齒に齲齒があるとか、齒と齦との間に膿を持つとかで、餘り早く拔け替らぬ前の齒を拔いて仕舞ふと、將來齒列不正を來す一つの原因になるのであります。其次には是は人がするのではなくして自然にさうなるのでありますが、齒が當然の方に生へて來ないで、逆つた方向に生へて來ると云ふやうに、二つの原因の爲に將來齒列不正を來すのであります。此第一の方で餘り早く齒を拔いて仕舞つた爲に將來齒列不正を來すと云ふ事に就て、一つ一つの齒に就て詳しく申上げたいと思ひまする。餘り早く齒を拔いてしまいますると、其となりに生へて居る又生へて來る齒が其の場所を占領してしまつて其爲に後から齒列が惡くなると云ふやうな事を起して來ます。

で今一つ一つの齒に付て申上げれば、今拔け替らない前の大臼齒を拔いた時の御話を申上げれば、上でも下でも、右でも左でも同じ事であります、大臼齒を早け拔きまするとどう云ふ風になるかと云ふとつまり前に申上げました六歳臼齒の未だ生へて來ないさう云ふ時代に於て、拔け替らない前の大臼齒を拔き去りまするとゝ拔き去つた後へ六歳臼齒と云ふ齒が生へて來て、其場所を占領してしまひます。すると後から生て來る六歳臼齒より前の齒卽先きに

拔いた齒の代りの齒は自分が生へるべき場所がないから前の方へ出る。其次のが又自分の生へて居る可き場所より前の方へ進むと云ふ風にだん／＼順繰りに前の方へ出て參ります。そして最後には前齒が自分の居る處がなくなるので前へ突び出して來ると云ふ形になるのであります。若し下の齒でありましたなら大變に下の顎が前の方へ突び出して來るやうな形になるのであります。（標本を示す）斯樣になります、もし前齒が何かの原因で自分の位置を固持致して居りますれば、犬齒がとび出し犬齒も固持すれば小臼齒が外又は內側へ出でゝ參ります。今度は絲切齒を早く拔いてしまつた時を申上げれば、是は齲齒とか何とか云ふ原因でなると云ふ事は少ないのであります、拔け替らぬ前の絲切り齒を早く拔くと云ふのは子供の顎骨の發育を大變に惡くする、其爲に將來前齒が生へる場所がなくなつて前齒が重り合つて生へると云ふ樣な事がおこる。一體顎骨の前の部分は當然は圓味を以つて居るが犬齒を早く拔いたために骨の發育が惡く、其爲に前の方の圓味がなくなつて平になつて來ると云ふやうな事が起つて來る、それは犬齒の話で、拔けかわる前の齒を早く拔くとよくなるのであります。又前齒を早く拔き去りましても、上の前齒ですと大した影響はありませんが、下の前齒を早く拔きますると、下の方が早く大變長くなります、其結果、上の前齒が生へて來ますると云ふと、上の齒を下の前齒で以つて押へつけて仕舞ふ一寸解らないかも知れませぬが、上の前齒は通常でもいくらか內の方へ生へる傾向があるので、斯樣な場合直に押へられます、其の結果は下の顎が前へ出て上が中へ引込んで居ると云ふやうな形になる、斯樣な事は普通の場合でも起り易いのであります。で早く齒を拔き去つたと云ふ結果は、今申上げたやうな、さう云ふ變化が起つて來るのであります。又其結果としていろ／＼顏面にも變化を起して來ます。第二の原因と致しましては……第二の原因、是は多くは先天的でありまして卽生れつき齒が違つた

方向へ生へるので、其爲に種々の變化を起して來る事があります。又齒の生へる場所がなかつた爲に、卽ち餘り顎骨が小さい所へ持つて來て齒が大變に大きいと云ふ場合には、齒は普通の方向へ生へやうとするにも生へる事が出來ずに、場所が狹い爲に外へ反り出して仕舞つて出齒となり、亂杭齒となる。かう云ふ事は遺傳的の關係があるのでありますが、齒が生へる事だけは生れつきでありませぬけれども、生へるやうに土臺を作つて來た事が、生れつきになるのであります。其の外後天的にも顎骨の發育がわるい爲め齒の生へる場所がなくて色々の所へ生へることもあります。で子供が六歳頃になりますと、卽ち私の申上げる齒牙交換期が始まる頃は顎骨が大變に大きくなるから、齒と齒との間が其前よりも幾何か間が隙いて來るやうになつて來るのであります交換期時分になりますと少し齒と齒との間が開いて參ります（圖を示す）斯樣に開いて參ります、ですが齒の大きさは交換斯の時になつても、生れた時分でも大きさに變りはないのであります、顎骨が大きくなつて來ますから其間が開くのであります。齒牙交換期に於ても齒と齒との間があかないで、くつついて居ると云ふやうなのは、是は骨の發育の惡いことを示すので、つまり病的であります。で特に御注意なさらなければならぬ事だらうと思ひます。

さう云ふやうな事で齒列不正を來しますから、今度はそれ等原因に對する豫防と云ふ事を申し上げますれば、今原因を二つ、卽ち早く拔きすぎると云ふ事及び齒の方向が違つて生へて來ると云ふ事を申上げた故、豫防の事も二つの方法を申し上げやうと思ふ。それを申上げる前に、一體拔け替つた後の齒と其前の齒と何處が違ふかと云ふ事を一寸玆に付け加へて申上げやうと思ふ。拔替らぬ前の齒と後の齒とは區別が六ケ敷く、なか／＼解らぬ事もありますが大體に於てさう六ケ敷い事でもありませぬ。勿論交換期時分に於ける區別の話でありますが、前齒ですと、拔け替つた後の齒は其先が鋭どくなつてギザギ

ザが澤山付いて居る(圖を示す)此所が大變に鋭どくなつて、大體に澤山ギザ〳〵が付いて居りますが、拔け替らぬ前の齒はさう云ふ事はありませぬ。それから奥齒でありまするど、拔け替つた後の齒ですと前後に尖つた山がありますが、拔け替らぬ前の齒は尖つて居りませぬ。それから前齒は拔け變つた齒の方は少し大きいのです。絲切り齒ですと大きさは餘り違はない。で一寸解り惜いのであります。が大體に一致して居る點はどう云ふ點であるかと云ふと、拔け替らない齒は大變減つて居ります、そして物を噛む面の所を見まするど眞中に黄色い部分がありまして、そして其の周圍を白い所で取り圍んで居ると云ふ狀態で、減つて居ると云ふ事がわかります。それで大體見分けが出來るのであります。拔け替らぬ前の齒は眞中が黄色で、廻りが白くなつて居つて、大變に擦り減らされて居るやうな狀態であります。一寸御覧に入れます(圖を示す)

扨て本論に入りまして、此原因に對する豫防を御話致しまするど、齒を早く拔き去ると云ふ第一の原因に對しては、早く拔かなければそれでよいのでありますが、併しどうしても拔かなければならぬと云ふやうな場合が起つて來ないとも限らないのであります。それは齲齒が起つたとか、齲齒が起つた爲に骨が腐り膿が出る、それが全身に蔓延つて命が危いと云ふやうな場合には是非拔かなければならぬから、第一に齲齒が起らぬやうに注意しなければならぬ事だらうと思ひます。で齲齒が起りましたなら、直ぐにそれに對しては相當の處置をして、將來それが害をせないやうに或程度まで其齒を取つて置かなければならぬのであります、拔け替る齒だからと云つて捨てゝ置くと大變惡いのであります。拔け替らない前の齒に於ては臼齒が大變に齲齒に罹り易い齒であります。でありまするから、之によく注意を拂つて一寸でも齲が食つたとか何とか云ふ時に、直に治療をしないといろ〳〵の事が起つて來る。絲切り齒が前に申した通り顎骨の發育と云ふ事に關係を以つて

居るから、之を黴が食つたりせぬやうに注意しなければならぬ。黴が食はないやうにと云ふには、口中を清潔にしなければなりませぬ、それは第一に對する豫防であります。第二の豫防と云ふと、生れつき違つた方向へ齒が生へて來るのでありますから、生へない内には是に對する豫防は六ケ敷いのでありますが、若しも違つた方向へ齒が生へ且其の下にある乳齒がいつまでもありますと、其の齒は將來上とか外とか或は内側の方又は他の齒の位置へ自分を置く樣になるから、斯樣なる場合には直に專門家の手に依つて治療をしなければならぬのであります。或は又前齒が前に申し上げた時期に於て尙ほ交換しないで、いつまでも殘つて居ると云ふ事は、將來怪しい事が起つて來るのでありますから、專門家の注意を受ける方がよいのであります。六歳以上になつてから齒と齒との間がくつついて居る時には餘程注意をしなければならぬ事だらうと思ひます。又齒列不正と云ふ事が既に起つて仕舞つて十八、十九、二十と云ふやうな時代に癒さうとしても癒らぬ事はないのであります。齒科醫學の内でも殊に「オルトドンチー」卽不正齒列を治療する學科の進歩から見ましても齒列が惡くなつてからも十分に癒す事が出來るのでありますが、惡くなつてから癒すと云ふと時間もかかりますし、非常に面倒な仕事でありますからして其始めに一寸注意して、其時代に注意する事が必要であらうと思ひます。第三の原因になりまする方で生れたてから顎骨が小さいとか、齒が餘り大き過ぎると云ふやうな場合に於て、齒列が惡くなると云ふ事に對する注意は其場合〳〵でいろ〳〵の注意をしなければならぬので且つ專門家の手でなくてはできぬ仕事であります。でこゝで一々申上げる事は到底出來ない事でありますから、それは申しませぬが又生れつきまちがつた方向へ齒が生へた來たと云ふ樣な場合には直に專門家に見せて、早く治療なさつて將來齒列不正を起さぬ樣御注意をなさればそれでよい事であらうと思ひます。それで最後の結論と致し

まして、今申上げた一つ一つの注意は、歸するところはどんな事であるかと云ふと、口中を清潔にする事、乳齒を拔け替るからよいと云つて棄て置かずに口中は常に清潔にすると云ふ事は齲齒を豫防する事である。であるから御子樣方の口の中は成可く清潔にすると云ふ事、それには「ガーゼ」の樣な布を以つて拭いてあげると云ふ事である。又嗽ひをなさるにもたゞの水でなさるといくらか粘膜を刺戟してよくありませぬから、含嗽ひをなさるのでしたら一摘み位の鹽を「コップ」一パイの水の中へ入れて、其鹽水で含嗽ひをすると云ふ事が大變によからうと思ひます。其外牛乳で子供を養ふのと母の乳で養ふのとの場合は、全身の發育と云ふ事に大變關係する事でありますが、齒の發育の時にも牛乳と母の乳とは大變に違ふので、牛乳で養はれた子供は齲齒になり易いが、母の乳で養ふた子供は一向さう云ふやうな事がなく、大變丈夫であると云ふやうな事があります。まあざつと今申上げたやうな事で、甚だつまらぬ事を御饒舌り致しました、今日は是で御免を蒙ります

叢談

咳嗽の話

醫學士　篠原昌治

夏期の間は腸胃の病氣が多く、殊に小兒の下痢症では母親に一通りならぬ心配を懸けることが度々ありますけれど、是から秋風が身にしむ樣になりますにつれて腸胃病は少なくなりまして、其代りに咳嗽の出る病氣が多くなりますから、爰で咳嗽に就ての御話を少々申上げて見たいと思ひます。

咳嗽は如何なる病氣の時に出るものであるかと申しますると、其種類が極めて多くありまして第一呼吸器の病氣、即ち扁桃腺炎、咽頭加答兒、喉頭加答兒

氣管枝加答兒、肋膜炎、肺炎、肺結核及び百日咳、喘息、肺氣腫、其他の肺疾患。第二、心臟瓣膜病、心臟衰弱症。第三「インフルエンザ」等であります。其他胃、子宮、肝臟等より反射的に來るものもありますし、又鼻耳等より來る咳嗽もあると云ふことでありますけれど、其等は極めて稀なものでありまして餘り必要のないことでありますから　爰には申上げぬことに致します。

神經性の咳嗽と申しまして、何時も輕い咳嗽をして居る人があります、斯る人は他人と話をして居るとか、又は他の事柄に注意して居る時には餘り咳嗽を致しません、元來神經性の咳嗽と云ふものがあるかないかと云ふことは問題でありましたけれど、現今では神經性の咳嗽があると云ふことは誰も信じて居ることであります。然しこれは實に大切なことでありまして、醫者が診察して呼吸器に異條がないからこれは神經性の咳嗽であると云ふ樣な診斷をつけてはなりません、其は氣管枝加答兒や肺結核の初期には診察して少しも變化が見出されないで、唯咳嗽が出るのみのことがありますからです。其故神經性の咳嗽と云ふのは、平素神經質の患者であつて、且つ其咳嗽の性質も特有のものでなければなりません。

咳嗽の出る病氣の內では如何なる病氣が多數であるかと云ふことに就て一萬二千九百二十五人の患者に就て調べられた處によりますれば

肺結核	二五四七人
氣管枝加答兒	二五三三人
心臟病(僧帽瓣膜病)	二二〇六人
頸部炎症	一四〇五人
肋膜炎	七六三人
咽頭炎	七五一人
心臟筋肉衰弱症	五八七人
肺炎	五二一人
心臟病(大動脈瓣不全閉鎖症)	五一七人
「インフルエンザ」	三八八人
喘息	三七九人

肺氣腫　三二八人

と云ふ順序であります。

咳嗽にも色々種類がありまして、咳嗽が出ると共に喀痰の出る病氣と、咳嗽だけで喀痰の出ない病氣とがあります。

又喀痰の出る方の種類の病氣でありましても、其時期によつて喀痰の出る時と出ない時とがあります、而して全く喀痰の出ないと云ふものは動脈瘤とか、又は其他鬱血等の爲めに氣管を壓迫せらるゝ時などに起るものであります。

其他冬期になれば必ず咳嗽が出ると云ふ人があります、それは多く氣管枝擴張症がある爲でありまして、此等の患者は夏期には身體に何等の異常もありません。然し斯る人は「インフルエンザ」に罹り易く從て肺結核になり易き傾向を有するものでありますから、常に注意を怠らぬ樣にせねばなりません。

身體を動かせば咳嗽が出ると云ふ人がありますが、それは多く心臓病から來る咳嗽であります。

既に申上げました通り、呼吸器の何れの部分に病氣がありましても咳嗽が出るものでありますが、その呼吸器とは人體の如何なる部分であるかと云ふに、元來人間が呼吸を致しますのは鼻孔、口孔より新鮮なる乃ち酸素に富んで居る空氣を吸入しまして、其が咽頭、喉頭、大氣管枝、小氣管枝を通過して肺胞に至りまして、其處で空氣中の酸素を血液に與へ、血液中にある炭酸瓦斯を受取るものであります。斯の如くして人體に必要なる酸素を供給し、不用産物たる炭酸瓦斯を體外に排出するものでありまして、恰も人間が口腔より滋養物を攝取して其内人體の榮養に必要なるものを胃腸より吸收し、其殘餘を大小便として排却すると同じ作用を營むものであります而して此炭酸瓦斯を受取りたる空氣は、またもとの道を通つて再び鼻及び口より吐出さるゝものでありまして、此鼻口より肺胞に至るまでの道を呼吸器と稱するものであります。

吾々が感冒に罹つたと申すのは、多くは此呼吸器の

上部卽ち外表に近き處が犯されたのでありまして、例へば鼻加答兒、扁桃腺炎、咽頭加答兒、喉頭加答兒等が多くあります。此時は一般に大きな、力强い咳嗽が出まして、同時に多少の喀痰も出て來るものであります。熱はあることもあれば、なきこともあります、けれど此等は一般に輕い病氣でありまして多くは數日の内に全治するものであることは讀者のよく御存知の通りであります。

其より病氣が少し進行しますれば、大氣管枝より小氣管枝を犯しまして、氣管枝加答兒となります。此時は一般に咳嗽が澤山に出るものでありまして、大氣管枝がわるい時は大きな力强いものでありますけれど、それが段々小氣管枝に及ぶに從ひ小さい、輕い咳嗽が出る樣になるものであります。氣管枝加答兒の時は一般に喀痰も澤山に出ますし、又急性のものは熱も出て來るものでありますけれど、慢性になれば熱の出ないことが多くあります。それが治癒る迄の日數は病氣の性質によつて甚だしく相違して居りますれど、慢性に移行することなく、又肋膜炎、肺病等を續發する樣なことがなければ、程なくもとの健康に恢復するものであります。

肺炎には急性卽ち格魯布性肺炎と慢性卽ち加答兒性肺炎との二種類があります。急性のものは肺炎菌と云ふ黴菌の作用によつて起るものでありまして、慢性のものには結核性のものが多くあります、肋膜炎とは肺と胸廓との間にある肋膜と云ふものに炎症を起すものでありまして、此等の病氣の際には澤山に咳嗽が出るばかりでなく、咳嗽の出る度に胸部が痛みまして、患者は非常な苦痛を訴ふることがあります。其他喀痰も熱も出まして、殊に急性肺炎の時は鐵銹色をした特有の喀痰が出でゝ、其中に血液を混することがあります。此等の病氣は呼吸器病の中でも重き種類に屬するものでありまして、其治癒する迄の日數は甚しく相違して居ります。肺病と申しますのは矢張り小氣管枝や肺胞が犯さるゝ病氣でありまして、普通の氣管枝加答兒と異なつて居るのは、

其病氣の原因が結核菌によつて起るからであります其故氣管枝加答兒と思ふて居つたものが肺病であつたり、又どうも肺病らしいと思ふて神經を惱まして居つたものが唯の氣管枝加答兒であつたりすることは時々遭遇することであります。其故肺病と氣管枝加答兒との區別は一見直ちに明瞭であることもありますけれど、又時としては其判定が極めて困難でありまして、顯微鏡で喀痰を檢査しまして其中に結核菌が居ると云ふことを確めなければ、それが肺病であると云ふことを斷定することが出來ぬと云ふ樣な場合もあります。

肺病の時には咳嗽が出まして、而もそれが小さく力のないものであると云ふことは多くの人が承知して居らるゝことであります。然し肺病の時の咳嗽は常に小さく無力のものであるかと云ふに、決してそうと定まつたものではありません。何となれば肺病の時には必ず肺のみが犯さるゝかと云ふに、決してそうではなく、肺病に罹つて居る人は同時に氣管枝加答兒、喉頭加答兒、咽頭加答兒等にかゝることがありますから、其爲めに肺病患者でも大きな、力强い咳嗽をすることがあります。其故大きな、力强い咳嗽をするからと云ふて、其人が肺病患者でないと云ふことが云はれるものではありません。

肺病患者は常に咳嗽をするものと定まつたものでもなく、時としては少しも咳嗽の出ないこともあります。元來肺病には咳嗽の多く出るものと、極めて少ないものとがありますけれど、例へ咳嗽の少ないものでありましても、肺病の全經過中全く咳嗽が出ないと云ふ樣なことは殆んどありません、唯其出方が少ない爲めに、餘り注意をひかぬこともありますし、又或時期には澤山に出ても他の時期には少しも出ないと云ふ樣なこともありますから、たとへ咳嗽が出ないからと申しましても、それが肺病でないと考へるのは大なる間違であります。

其他呼吸器に關係のある病氣で咳嗽の出るものは百日咳、喘息、肺氣腫等があります。百日咳は小兒に

來る一種の傳染病でありまして、痙攣性の咳嗽が多數頻發し、其間は殆んど呼氣のみ相連り、唯時々僅に強き吸氣をなすのみでありまして、甚しき場合には面部、頸部は暗赤色を呈し、遂に吐逆するに至るものであります。喘息は所謂喘息の發作なる一種特有の呼吸困難を來すものでありまして、肺氣腫は多く老年の人に來り、咳嗽喀痰、呼吸困難、胸内苦悶等を生ずる病氣であります。

心臟病即ち僧帽瓣膜病、大動脈瓣口不全閉鎖症及び心筋衰弱症などの患者もよく咳嗽をするものでありまして、同時に喀痰も出ます、而してその喀痰中には時々血液を混じて居ることがありまして、其爲めに患者は肺結核ではないかと思ふて心配することもあります。然し心臟病は醫者が注意して診察しますれば、多くは間違なく診斷をつけることが出來るものであります。心臟病より來る咳嗽は心臟病そのものが輕快するにつれて漸次減少するものでありまして、其際は本病の治療が最も大切であります。

「インフルエンザ」は一種の黴菌によつて起る病氣でありまして、此時にも咳嗽が出て、又喀痰も出るばかりでなく、此際には高熱を發し、隨分苦しい病氣であります。けれど大概一週間前後で治癒するものであります。

咳嗽は既に申上げました通り、種々の病氣の時に發するものでありますけれど、其内心臟病や「インフルエンザ」の爲めに發するものは、既に其原因や性質も明瞭でありまして、從て其治療方針も定まつて居りますから爰に申上げる必要もないことゝ存じます。唯呼吸器より來るものは多くの種類がありまして、その内には數日にして治癒すべき頗る輕症のものもありますけれど、又一方には將來危險なる疾病を發する前驅症として來るものもありますから、大に注意せねばなりません。

呼吸器の疾患の爲めに出る咳嗽でありましても、それが身體の外部に近き口腔又は咽頭あたりの病氣の爲めに出るものでありますれば、何等顧慮すべきも

のでもありませんし、又程なく治癒するものでありますけれど、肋膜炎又は肺結核の如き重症の疾患の初期に、他の症狀は全くなきか、又はあつても殊に注意を引くほどの事もなく、唯咳嗽のみが出ることがありますから、若し咳嗽が出て容易に治癒らぬ樣な場合には、之を感冒の爲とのみ考へて等閑にして置くことなく、一度は信用ある醫師の診斷を受けて置く必要があると考へます、殊に咳嗽の出る病氣そのものは、簡單なる氣管枝加答兒位のものでありまして、心配のない病氣でありましても、それを打捨て置きますれば、それから危險な病氣を續發することがあります。元來空氣中には塵埃に交つて澤山の結核菌が居りまして、それを人間が鼻口腔より吸氣と共に吸入することは屢々あるものであります。然し呼吸器の健全な人でありますれば、此空氣と共に吸入せられた結核菌は直ちに死滅して繁殖致しませんから、從つて肺病にかゝる樣なことはありませんけれど、若し氣管枝加答兒などに罹つて居る人が結核菌を吸入しますれば、其微菌は容易に死滅せざるのみならず、漸次繁殖しまして、遂に結核性の疾患を惹起することがありますから、此意味に於きましても、咳嗽の出る病氣は早やく治療せねばならぬことゝ存じます。

咳嗽の出る時に其治療法としては、藥物を用ゆる外に種々注意すべきことがあります、例へば成るべく寒冷の空氣又は塵埃を含む空氣を吸入せざる樣にすること、又室溫は常に一定して餘り冷くせぬ樣にすること、室內の空氣が餘り乾燥せぬ樣に常に水蒸氣を發散せしむる等であります。其他病ひのある部位に濕布をするとか、又は種々の藥劑の吸入をする等の事もありますけれど、餘り長くなりますから、其等の事は一切省略することゝ致しました。

神經質と教育

ドクトル　山田彌發

神經質と教育の話を致さうと思ふのでありますが皆さまも御承知の如く文明は人間を驅つて神經質にならしめねば止まないかの如き觀があります。若し二十年も三十年も前に神經質と教育と云ふ題で話をするものがあつたならば人々は驚歎の眼を以て見たかも知れませぬ。併し今日は神經質と云つても決して不思議な思ひをするやうなことはありませぬ。今日醫學と教育と協同して盡さねばならぬ範圍が餘程多くなつて來たやうでありますが殊に神經の衞生と云ふことは其中の重要なる一つであります。實際今日の如く文明が進んで來ればどの人間も其文明の影響を受けて神經質になり易いのであります。昔の子供は簡單なことを習へばそれで濟んだのでありますが今日小學校に於ける教育は迚も簡單なことで濟まないのであります。其爲に兒童が頭腦を用ゆることは日一日と激しくなつて參ります。其結果色々の健康障碍を受けるのであります。其中でも神經系に於て被る所の影響は決して尠くないのであります。そこで之を教育の方面から見且つ醫學上の方面から見て色々の研究をし且つ適當の處置を講ぜられなければならぬやうになりました。其結果今日神經質と教育に就いて教育家並に醫家の研究は非常に澤山あります。從つて之に關する著述も餘程多く出來たのであります。

第一必要なことは一體神經質と云ふことは何であるかと云ふことを知ることであります。誰でも神經質がどんなものであるかと云ふことは想像が就く。併し其神經質に關する觀念は人々に依つて大變違つて居る。普通の人は兎も角も專門家に於てすら神經質と云ふことを簡單な言葉で言ひ現はすことはむつかしいのであります。そこで私は二三の例を引いてお話申上げて見たいと思ふのであります。茲に一人の男子がありまして、私の所にやつて來て面會を求め

るものと致しますと、其人の訴える所では長い間神經質になつて居る。段々尋ねて見ると其人は仕事が激しくなつたが爲に今は眠られなくなつた。其結果勤めて居る會社又は家庭に於て誰でも人を見ると怒りたくなつたり、又は興奮して來る。何か一つやると直に疲れて一つに考を集中することも出來ず。段段不愉快になつて來る。此人の狀態は確に神經質である。

又次に若い婦人がやつて來て申しますには私は神經質であります。私は高尚な目的を以て働かんとして居ります。私の云ふことは周圍に居る人がちつとも領解して呉れませぬ。私は高尚な目的の爲に力を盡して居るのでありますが、誰も顧て補助して呉れるものがありませぬ。私は教師にならうと思ひましたが周圍の人が其資格がないと云ひます。私は看護婦にならうと思つて志願しましたけれども、又彈付けられました。其理由は私にそれだけの豫備教育がないと云ふのであります。是が其娘の申分でありますが能く檢査して見ますと娘の榮養は衰へて血色のない爲に、周圍の人が割に輕い仕事を與へやうと思つて普通の家で使つて居るのであります。けれども其娘は色々違つた考を持つて居るが爲に其生活が滿足でなく、或は悲觀して見たり、又充分に眠られなかつたり、頭が痛かつたり、眩暈がしたり、心臟の鼓動が激しくなつたり、兎に角現在の仕事をする爲に不愉快の思を持つて居るのであります。此娘は確に神經質であります。併し前の男の人とは全く種類が違つて居ることを認めます。

茲に又一人の婦人がありまして結婚してから長くなりますに拘らず。まだ子供が出來ない、其結果此婦人は非常に悲觀して斯んなことならば自分は此世の中に生きて居る甲斐がないと思つて色々なことをやるやうになつて來ました。即ち外の男子と盛に交通して見たり、或は時に取つてはいつそ死んで仕舞ふと思つて自殺を企てたやうなこともあります。是も神經質であります。斯の如く神經質の形は色々に現

れて來るのであります。

今日實際敎育上必要なことは神經質は誤られたる敎育の感作を受けて起つて來ると云ふことであります是は幼弱の兒童に向つては非常に必要な問題であります。吾々が子供を見る場合に榮養が惡しく貧血性で眠ることも充分出來ず、又恐しい夢を見たり、或は夜突然起きて色々のことをやつたり、學校に來ても注意が散漫して其課業が修らないやうなものがあります。斯る兒童は遂には課業を怠けるやうになつて普通の子供と共に課業を修めて行くことが出來なくなり日々惡い方に進んで行くのであります。

斯る例を擧げれば幾らでもありますが、右に擧げただけで既に神經質の色々に現はれると云ふことはお解りになつたらうと思ひます。

斯の如く色々に現れて來る狀態は、千態萬狀であるかの如く見えますけれども、其中に相通じた性質を持つて居るのであります。それならば其通じた性質は何であるかと云ふに、一言にして云ふと神經系統の病的興奮であります。即ち刺戟性の薄弱、減弱性の緊張力を吾々は總ての神經質の人に於て認めるのであります。神經質は單に神經の一部分が病態になつて居ると云ふのではなく、其人の精神の全部と關係を有して居るが爲に之を治療することはそれ程簡單なことではありませぬ。例へば外科で手術をするが如く、指の先が腐つて居るから之を切除する、或は盲腸が炎症を起して居るから之を剔出するさうすると病源がなくなつて治癒すると云ふやうに簡單には行かないのであります。それであるから神經質の人を治療する場合には其人の全精神生活に立入つて深く檢査をしなければならないのであります。周圍の人々或は家庭の狀況、職業の輕重、榮養の如何とを顧慮しなければならぬことは申すまでもありませぬ。

右に述べたのは大抵大人に於ける例でありますが子供に於ても其有樣は同じ理由に基いて似た所を發見するのであります。前にも申しました如く神經質は

現代の文明病でありますどこに行つても神經質神經質と云ふ聲を今日は聞くのであります。若し今日の文明が神經質を作る爲に都合が宜い影響を與へるものであるならば現代の文明は神經の力を阻碍しつゝあるものと見ても差支ないのであります。

成程文明が神經系統を阻碍しつゝあることは今日の文明生活を見れば能く分ります。工業の發達、嗜好品の濫用例へば「アルコホール」煙草等、風俗習慣の華美、國民の贅澤、職業の激烈等は神經質を作る上に於て都合の好い要素となるのであります。

實際吾々が今日若い人々に於て神經質の者を見ることは屢くであります。殊に婦人に於ても甚だ多く之を見るのであります。此中には既に遺傳性の神經性のものもあり又惡い習慣の爲に發生したものもあります。例へば「アルコホール」性飲料を用ゐたり。又不眞面目の生活を受ける爲に起つたものもあります。

(以下次號)

育兒

初生兒の榮養法

醫學士　宇都野研

初生兒期と云ふのは、普通生後二週間ばかりの間を云ふのであります。小兒が生れますと、從來母の胎内に於ては、臍帶の血管に依つて、榮養されて居つたのでありますが、急に口から榮養を攝らねばならぬ事になります。それで其食物としては、勿論母乳が一番適當であります、母乳は妊娠の末期頃から分泌を初めますが、大量に分泌て來るのは、分娩後三四日目であります。而して分娩後一週間位の間に分泌る乳は、初乳と申して成分が少し違つて居ります、此の乳の中には、母體の血液から來る物質が、

多く含まれて居ります。此の點から、胎内生活と哺乳兒期との中間にあたる初生兒期に於ける食物として、最も適當なものであると云ふ様な議論があるのであります。又初乳は濃厚で、従つて榮養の價が高く、多く哺乳せずとも生命を維持する事が出來る様になつて居ります。

普通母乳を與へるのは、分娩後第二日目よりでありますが、必ずしも此の規則を守る必要はない、もつと早くより與へても遅くより與へてもよいのであります。哺乳の回數は、特別な事情の無い限りは、一晝夜六七回が適當であります、若し哺乳が不十分であつたならば、毎哺乳後に十瓦乃至三十瓦位づゝ母乳を搾つて、小匙か又は牛乳瓶に入れて與へるのであるが、乳の分泌の悪い時には單に哺乳後に番茶又は湯等を與へておけばよいのである、これは初乳の榮養價が高いためと、健康な初生兒は比較的少量の食物を與へておいても、液體の量さへ十分であれば、危險に陥る様な事は無く、體重の經過も大差が無いからである。

本邦では、初生兒期に平氣で牛乳を使つて居りますが、今申した様な理由で、牛乳を以つて母乳の不足を補はねばならぬ様な場合は、極めて稀であります。元來初生兒の體重の一番低くなるのは、生後四日目位でありますが、それから以後體重が減じて行く様な事さへ無くば、假令增し方が不良であつても心配する事は無いのであります、母乳の分泌がよくなつて來れば、直ちに取り返しをつけ得るものであるからであります、又一方から云ふと、牛乳は元來哺乳兒に適當しないものであるが、初生兒期は殊に牛乳で榮養する事の困難な時期であつて一旦消化不良を起すと、極めて危險な狀態に陥るもので、取り返しがつかぬ事になる。それで自分等の經驗では、牛乳を使用する必要の無い場合に、使はれて居る事が多數の様に思はれる。斯る弊風は一日も早く改良したいものである。

上しんこや、おねばや、麥のゑまし水等で初生兒を

育てる方法は、頭から間違つて居るのであつて、お話する必要はないのであります。

太郎の生立（承前）

ドクトル　三田谷　啓

第六箇月

第六箇月の初に太郎は腕と足を動かして體操の眞似をして喜んで居た。太郎の父が體操をやると太郎は喫驚したやうな顔をして之を見て又笑つた。其後二日に太郎は自分の足を擧げて交叉して足の指を動かして見たり。又手で足を掴へやうとした。太郎は自分の小さい足及び足の趾を一體に好んで居たと見える。好んで之を見又笑つて居た。是は人に坐らせて貰つた場合のことである。太郎はまだ獨り坐ることは出來なかつた。百六十二日目に太郎は自分の足を動かして靴下を掴まうとした。百七十三日目に太郎は足を一生懸命に眺めてそれから手で掴んで靴下を脱いだ。太郎は又足の趾を口の方に持つて行かうとした。是は百七十四日目のことである。太郎は又手を見て喜ぶやうになつた。太郎の父が百八十四日目に太郎が兩方の手を見て比較して居ることを發見した。太郎は一方の手の指を動かしてさうしてそれを見詰めて居つた。それから他の手の指を動かして之を見詰めた。其時に太郎は持續して小さな聲で何か話して居た。又太郎の手は何時でも動いて居てものを取つたり、掴んだりして居た。

太郎を浴に入れると太郎は浴槽の緣を手で掴みそれが愉快であるやうに見えた。太郎は父母及び姉妹を手で觸れて見なければならなかつた。斯の如くにして太郎は人の顔を掴むことが殆ど習慣のやうになつた。併し太郎の前に父の半身像を持つて來て見せても太郎はそれを掴まなかつた（百七十四日）。

太郎は非常に喜んで自分の小車に掛けてある布を掴んだ。さうして此布を口の中に持つて行つた（百七十五日）。

太郎の飲物の中に「テー」を入れた罎があつた。是は太郎を安かにする爲に用ゐられた。百七十七日以後は太郎は自分に此罎を持つことが出來た。罎が空になつたらば太郎は之を擧げて口に持つて來てさうして吸口を吹いた。百八十日目に「ヒンペール」の液を貰つた時に太郎は匙を掴んだ。

太郎は玩具を持つて遊ぶ時に唯だ之を掴む外には何事もしなかつた。併し太郎は之を能く知つて居つて斯る遊びを愛して居た。百六十日目に玩具を失ふと大變機嫌が惡るかつた。又玩具を持つて來ると機嫌が直つて喜んで居た。護謨の犬を太郎は貰つて百六十一日目から之を持つて大いに喜んで遊んで居た。太郎は犬の頭と足を口の中へ持つて行つた。百六十八日目に太郎は色々の玩具に對する興味を周圍の人から認められた。太郎は自分の所有に係る玩具は何でも自分の側に置いて置くことを要求した。それでなければ機嫌が惡くなる。一週間程後に太郎は或る新しい玩具の人形を貰つた。太郎は此玩具を貰つて色々の方面に注意をしてそれを良く眺めた。二三日經つと太郎は又色を著けた籃を机の上に置いて貰つて之を見て非常に喜んだ。若し外の人が太郎に玩具を遣ると太郎はそれを投げた。是は机の上に在る籃に當てやうとする爲であつた。

太郎は斯の如くにして段々活潑になつて來た入浴の時に激しく人に湯を掛けて喜んで居た。是が百六十二日目のことである。太郎は笑つて兩親や姉妹が笑へば段々強く水を掛けた、太郎が全身を動かし出したのは丁度百七十日目に觀察せられた。彼は非常に活潑になつて大な呼吸をしてさうしてホホホと云つて笑ひ出した。又グツクー〳〵〳〵の遊びを父と共に行ふことは非常に喜びであつた(百六十八日)。太郎の父は赤い上著の後に頭を隱した。さうして俄に上著を落してさうしてグツクー〳〵〳〵と云へば太郎は大な聲を出して笑ふのであつた。母が遠方から太郎の方を向いて歩いて來たり、又父が太郎の方に來ると太郎は注意してさうして喜ぶやうになつ

た。是は百八十二日目のことで姉妹が歌を謳へば太郎は喜んで聞いて居つた(百七十一日)。

太郎の室に在る新しい太郎の室の白い天井を百六十四日目に長いこと見て居た。是と同じく太郎は母の大な白い「カラー」を熟視した太郎の母は同じ日に太郎の姉妹の側で書物を讀んで居たが、其時に太郎は母の口を見て居た。百七十六日目に太郎は再び鏡で試驗をされた太郎は鏡を見て大に喜び自分の顏の鏡に映つて居るのを見て、彼は鏡を摑みさうして笑つた。

百七十六日目に太郎は洗禮を受けた。此洗禮は全く無事に濟んだ。水が太郎の頭の上に掛つた時に太郎は嫌な顏をした。第二回目に太郎の臭覺を檢査されたのは丁度百七十七日目であつた。即ち黄色の「ツールペン」を太郎の前に持つて來ると太郎は鼻を上げて顏をしかめた。其後に太郎は二迷突の距離に「ヒアチンテー」の臭のあることを知つた。彼は其時に之を摑まうとはしなかつた。其外のものならば、大抵のものは摑むのであつた。百六十日目に太郎は短い濟んだ言葉で八と發音した。是は何か太郎の物を人に取られた場合であつた。さうして太郎は吹懲した顏で眺めて居た。若し太郎が喜んで居る場合にはホ或はヘと云ふのであつた(百六十五日目)。

さうして非常に機嫌が良ければ、ホグエーと云つた。

百七十日目に太郎がホホホと云つたことは既に述べたが、百七十五日目に太郎はイヤータラーと云つた。太郎の父がアルルールーと太郎に云へば、太郎は眞似た。百七十日目に太郎は坐らせて貰ふと喜んでイーと云つた。百七十四日目に初てSの發音が現れた。Sの發音がDSの音に於て現れた。此發音は時々DFと交換された。太郎の一定した泣方はまだ月の初に太郎の兩親が目擊したことは太郎が飢ゑた場合であつた。此場合には太郎は何を貰つてもそれで滿足しなかつた。唯だ乳を飮むと云ふのが主眼であつた。

少年衛生訓（承前）

ワイグル述
莊司秋次郎譯

それから爪は毎日よく洗ひ、又毎週爪を切つて清潔にして置かねばならぬ。如何に美しい手でも、爪が眞黑になつて居ては甚だ醜いものである。實際爪の緣の下には不潔物が溜り易いものである。私もこれはよく承知して居るが、然しこれは矢張つとめて除かなければならぬ、それには手を洗つた後で餘り尖つてゐない小楊枝のやうなもので爪の緣を擦つて除のが一番容易である、決して尖銳つたものを用ゐてはならぬ、例へば編針或はこれに類似のもの又は小刀の尖などを以て爪垢を除くことは宜しくない、往往これで以て爪牀を傷けることがある。それから又爪の根の處に皮膚が餘計に被つて來ることがあるが、これは時々注意して後に押歸へすやうにする、さうすると爪は美しく見えるものである。

爪は先づ毎週一回づゝ規則正しく切るが宜しい、爪は指の尖の圓味に從つて延びるものであるから、矢張その形に倣つて切つて置く。往々鳥の爪のやうに端が尖つて、指の端から長く突出てゐるのがあるがこれは寧ろ不自然で、醜くもあり、又危險である、容易に怪我をするものである。

爪で以て傷をした場合には餘程氣をつけて手當をしなければならぬ、昔からの諺にも「爪は毒である」と云ふて居るが、これは今日の智識から云ふても正理である。即ち爪で出來た傷は、兎角は炎症を起し化膿たがるものである。それは如何いふ理由かと云ふに、爪はよし充分清潔に保つても、その小さな凹みや隅のやうな所に、病氣を起す黴菌、殊に膿を構らへる黴菌、又丹毒の黴菌などが附著して居るものである。斯う云ふ譯であるから、爪で以て掻くのは宜しくない、これにつけても爪は益々清潔に保つことが必要である。

次に髮であるが、これも皮膚の一部分で、是非衛生

を要することである。髪は少なくとも一週に一度は軟かい石鹸と微温湯で以て洗ふ、頭の皮膚から垢や不潔物がすつかり除かれるほど念を入れて洗ふことである。

髪に油や香水をいくらつけても清潔にはならぬ、相變らず、その下に不潔物が溜つてゐる。髪を清潔に保つのには別段香の好いものを用うる必要はない、若し髪をよく洗はぬならば、香油や香水のやうなものを幾らつけても、矢張虱や垢を一緒に持つてあることになる。尤も一月に一回か二回位、「リチ子」油二食匙を四分一「リートル」の「フランツブラントワイン」に混ぜたものを以て髪を能く洗ふことは宜しい、これは何れの藥店でも買ふことが出來る、又自分で調合することが出來る。(註、「フランツブラントワイン」と云ふのは一種の「ブランデー」である、これは必しも「フランツブラントワイン」でなくとも宜しい、又只の薄い「アルコール」でも結構である)。これは毛髪の發育を助け、髪の光澤を好し且つ柔軟にする效があつて、安價くて、健康上に有益である、種々の廣告で吹聽されて居る香水などよりは遙かに適當なものである。

(以下次號)

家庭衛生

茸類に就て

香山仙史

今や東京の八百屋の店頭には栗、柿、林檎、甘藷などと如何にも味の美い、又そゞろに山林田野を偲ばしめる物が美事に現はれて居る、その中でも殊に一種なつかしい、何とも云へぬ山野の氣味をたゞよはせてゐるものは茸類である、特に松茸である。

食料に供せらるゝ茸の類はなか〳〵多い、而して何れも味が好く香が佳いのみならず、松茸や初茸などの分析表を一覽すると頗る多量の榮養分特に蛋白質

を多量に含むで居ることが分かる。

それで氣の早い人は、斯樣に美味で且つ榮養分に富むで居るものならば宜しく盛に食用すべしと考へて貪食するかも知れぬ。然しこれは大間違である、何故ならば、茸類には成程多量の蛋白質を含むで居ることは事實であるけれども、遺憾ながらこの蛋白質は大部分「アミド」化合物と云ふもので、人間の消化器では殆ど消化することの出來ないものである、從つて榮養のたしには餘りならぬのである。それで味の好いのに任せて貪食すれば消化器を害すること必定である、のみならず茸類には毒を含むで居るものもあるから餘程注意しなければならぬ。

茸類は一般に不消化なもので、榮養品と稱するだけの價値は無いけれども、その香と味とは食慾を助けるから、少なくとも普通の野菜、或はそれ以上の價値がある。勿論食べて宜しいが、只濫食することゝ古いものと、毒茸と間違はぬやうに、これだけは十分の注意を拂はなければならぬ。

○松茸　は京都稻荷山のものが古來有名であるが、東京の近くでは太田の松茸、信州邊のものが多い。松茸の成分はよく分からぬが、その香氣は兎も角も一種の揮發油に因るのである。

料理としては燒松茸、蒸松茸、吸物、三杯酢、甘煮、松茸飯又砂糖漬にもする、西洋料理の添物にも種々の形にして用ひられる。

人工的に松茸を培養することは餘り六ケしくない。松の根の煎汁に寒天と砂糖とを混ぜて、それに松茸の胞子を振撒いて置けば出來る。もう少し念入の培養基としては「ゼラチン」の溶液に、赤松の根の煎汁と、「ペプトン」と葡萄糖とを少し加へ、これに松茸の胞子を混ぜて置けば、暫くすると松茸がそれに發生する。胞子を取るには、まだ傘の開かぬ松茸の頭を柄の處から切つて、黑い紙の上に伏せて置くと、紙の上に落ちるから、これを集めて陰干にして使ふのである。

○初茸　は初秋他の茸類に先立つて出來るから初茸と

云ふのである。松茸と同じく山林の樹の下或は叢の中に生へる。初茸は初から傘を張つてゐるもので、黄赤色で少しく紫色を帶びてゐる。然し少しでも疵がつけば、忽ちその部分が青綠色に變る。これはその傷口の所から汁が出て、その中の醱酵素が空氣に觸れて酸化して綠色の物が生ずるのである。初茸も或は蒸し、或は吸物に入れ又は鹽漬にもする。味は淡泊で纖維も堅くない。

○○シメヂ　千本シメヂ、イボシメヂ、大黑シメヂ等の種類がある。淡灰白褐色で、濕氣の多い山林中に生ずるものである。專ら吸物にして香味共に佳なるものである。

○○椎茸　名の如く主として椎、楢、栗の木などに寄生する茸で、これは生よりも却つて乾かした方が香が高くなる、而して多くは乾製品にして貯藏し、種々の料理に用ゐるが、この乾製の椎茸は支那及び西洋の方にも大分輸出される、毎年百萬圓以上の輸出高であると云ふ。

人工的に培養するには椎、楢又は櫟のやうな樹を四五尺ほどに切つて、それに刻み目をつけ、三年間日當のよい風通しのよい處に置いたものを一晩水に漬けて、それに椎茸の胞子を撒き、椎茸の出來る森林中に立てかけて置けば出來る。元來椎茸の出來る森林であれば別に胞子を撒かずとも、時々米のとぎ水を灌けてやれば、四年目から盛に發生すると云ふことである。

此他木茸、香茸、松露等種々の種類があつて、何れも香味の宜しいもので而かも何れも不消化なものである。

茸類は蛋白質を多く含むで居るから滋養になると云ふ考は全く間違つて居るが、然し不消化物であるからと云ふて斯樣な結構なものを食はぬのも愚である、不消化物も相應に食ふて宜しい、多少必要である、況んや茸類の如き食慾を亢進させる效のあるものは適當に食用に供すべきである。只一つ注意すべきことは茸類の中には頗る激しい毒を含むで居るも

のがあり、往々食用にし得るものと誤ることである。これは大に愼まなければならぬことで、如何なる年でも茸の中毒患者のないことはない、隨分これが爲に死亡するものもある。

茸類は別に毒を含むで居らぬ普通の食用に供する松茸の如きものでも、前述の如く一體不消化なもので、尚は不明の成分も關係があるか、多く食へば容易に急性腸胃加答兒を起す傾がある。或は逆上せるとか秘結するとか云ふのは屢〻聞く所である。古いもの或は腐敗しかけたものなどを食へば勿論腹痛下痢等を起す。

有毒の茸類も色々種類があるが、普通茸の中毒と云へば月夜茸、又は天狗茸の中毒が大多數のやうである。

茸の食用にし得るものか又有毒のものかを鑑別ることは一寸六ケしい。それで名も知らぬやうな茸は勿論食べてはならぬが、食べられる茸に似て居つても多少疑はしいものは氣をつけなければならぬ、月夜茸は椎茸や平茸に一寸似て居るので危險である。月夜茸は信州の戸隠山あたりに多いと云ふことであるが、好んでフジに附く茸で、莖は太くて短かい方である。これと椎茸又は平茸とを鑑別るには傘と柄との著き具合で分かる、即ち椎茸や平茸なれば傘の裏から段々と柄に移り行いて居るが、月夜茸では傘の裏から莖に移る處は劃然して居る、尚ほ特異な處は椎茸や平茸では、その莖が傘の眞中に附著て居るのに、月夜茸では莖は眞中から出て居ず、必ず一方に偏よつて附いて居ることである。この茸は夜間その傘の下面が燐光を發するので、それで月夜茸の稱があるのだと云ふことである。

天狗茸と云ふのは數種類あるが、何れも二三寸位の高さになる茸で、その毒は「ムスカリン」と云ふ毒なことが分かつた。これが爲に激烈な中毒を起し、往往死亡するものを生ずるのである。

茸の有毒と無毒とを鑑別ることは甚だ大切なことではあるが、專門家でも一寸鑑別のつきかぬるものが

少なくない。俗間には莖の縦に割けぬものは毒茸である、色の美しいものは毒がある。傘の粘るものは毒があると云ふ。又壓つぶして乳のやうな汁の出るものは毒であるとか、茸を煮て居る鍋の中に銀鍍金の匙を入れて、匙の色が黒くなれば、その茸は毒茸であるとか、毒茸は鹽をかけると黄色になるものであるとか云ふが、何れも餘り確かな話ではない。それで先づ松茸とか、初茸とか、玉茸とか誰でも能く知つて居る普通の茸類だけを食べて、餘り珍らしい茸などは遠慮する方が安全である。

最後に茸類の中毒は如何な症状を發するかと云へば、その茸の種類にもより、又食べた量にもよることで、種々の相異はあるが、輕い場合には只腹が痛むで下痢をする、或は嘔吐する、先づ普通の胃腸加答兒の急性の症状である。稍や烈しいのは殆んど虎列剌かと思ふやうに甚しい吐瀉を起して、四肢も冷厥きつて終ふものがある。それから又消化器の症状の外に、神經系統を侵して、頭痛、眩暈、嘔吐の烈しいものもある。最も重症の中毒では血液に變化を起し、心臟痲痺の下に斃れるのである。

この中毒症状の起るのは、茸を食べてから、早いのは一時間乃至四時間で、胸が惡くなり、腹が痛み、次で吐き下すと云ふやうなことが始まる。而して大抵一日か二日か養生すれば、それで平癒するのが普通であるが、少し重いものは頭痛がし、甚しく口が渴き、動悸が劇しく、吐瀉も猛烈で、四肢の筋肉や關節に痛の起るものもある。又食後十時間乃至四十時間も經つてから、そろ／＼と中毒症状が始まつて非常に劇烈なものもある、斯様なものは既に毒が全身に廻はつたもので、治療を加へても殆んど助かる見込はないものである。

松茸の中毒の時は大抵急性胃腸加答兒の症状に伴ふて熱が高くなり、便通がなくなり、頭痛がして嘔吐が起り、瞳孔が大きくなるのが通常である、これが天狗茸の所謂「ムスカリン」中毒と異る所で、「ムスカリン」の中毒なれば、下痢を起す外に、盛に生唾

が出て、瞳孔は小さくなるのである。

扠て若し不幸にして茸に中毒したときは如何するか、自然の作用として嘔吐し、下痢して、その毒物を外に出すものであるが、これが矢張一番宜しい手當である、即ち吐劑を用ひて胃に在るものを吐かせて仕舞ふ、或は胃の内容を洗ひ出して仕舞ふ、而して既に腸の方へ行つたものは下劑を用ひ或は灌腸して下して仕舞ふことに努める、而して心臟の麻痹を防ぐ爲に種々の興奮劑、強心劑を與へ、其他その時と場合とに應じて適宜の療法を施さなければならぬ。然しこれは大部分醫師の仕事であるから、一刻も早く醫師を招くことゝし、餘り狼狽して無法な素人療法を試みない方が却て後の爲になるものである。

清涼劑の調合法

清涼劑にも澤山種類があつて、その場合に依てそれぞれ適否がありますけれども、普通熱のあるとき、又嘔氣のあるとき、或は何となく胃の具合で胸が悶へるとか云ふやうな場合に好んで處方されますものは、「リモナーデ」、「セルテル」水及び沸騰散等であります、此等は多少見當違を致しましても大した危害を來す虞もありませんから、誰でも調合法を知つて居つても差支はあるまいと思ひます。

「リモナーデ」

一體「リモナーデ」と云ひますのは、檸檬の實の絞り汁に砂糖と水とを混ぜたのが本統ですが、近頃は鑛酸類を用ひて人工的に似た味のものを調合し、一般に「リモナーデ」と稱して應用致します。それで鹽酸を用ひて調合したものは鹽酸「リモナーデ」、燐酸を用ひたものは燐酸「リモナーデ」と申します。

「リモナーデ」はつまり酸と甘とを調合するのですが、その酸の方は鹽酸、或は枸櫞酸又は燐酸等を主に用ひ、甘の方には單舍利別又は砂糖を用ひます。

(イ)鹽酸「リモナーデ」を製りますには、稀鹽酸一瓦

に水百七十瓦を加へ、それに單舍利別三十瓦を加へるのであります。普通の砂糖なれば茶匙で十杯も入れなければなりません。然しこれで酸が強い或は甘味が少ないと思ふ人もありませう。その場合には少しく水と單舍を增して宜しいのです。

(ロ)枸櫞酸「リモナーデ」は枸櫞酸一瓦、單舍利別三瓦水百七十瓦の割合に混和致します。

(ハ)燐酸「リモナーデ」は、燐酸が二瓦、單舍と水は(ロ)と同量を用ひます。

(ニ)酒石酸「リモナーデ」は、酒石酸一瓦、單舍十瓦水九百瓦の割合に調合致します。

(ホ)硝酸「リモナーデ」は、一〇%の稀硝酸二十瓦、單舍百二十五瓦、水八百七十五瓦の割合に混和します。

(ヘ)硫酸「リモナーデ」は、一〇%の稀硫酸二十瓦、單舍百二十五瓦、水八百七十五瓦の割合に混和調製致します。

右の中でも枸櫞「リモナーデ」、硫酸「リモナーデ」等は味が好い方です。更にこれに赤酒を加へ、或は枸櫞油又は橙皮油等を一滴位加へることもあります。斯様なものを加へます際には先づこれを單舍に混和して、それから徐々と水を加へるやうに致します、そうすれば油が上に浮くことはありません。而してこれを冷やして置いて少しづゝ飲むのであります。

「セルテル」水

これは炭酸鹽類と酸類を中和させて製る飽和劑でありまして、通常その遊離炭酸の刺戟で清爽の感を覺えるので、胃腸の運動を活潑にする作用があります。

これを製りますには堅固な罎の内に重曹二瓦を入れ冷水二百瓦を注いで溶かして置き、それに酒石酸一・八瓦或は枸櫞酸一・六瓦を粉末にし、又は水に溶かしたるものを輕く振盪しながら徐々に加へますと泡沫が起つて來ますが、漸次飽和して最早泡沫が立たなくなつた所で、靜に單舍二十瓦を加へ或は單舍に枸櫞油一滴を混ぜたものを加へまして、固く栓を施

して冷やかな場所に貯へて置くのであります。

沸騰散

沸騰散は、重曹十分、酒石酸九分、白糖十九分の割合に調合したものでありまして、能く乾燥してゐることが必要であります。これを用ひますには、水飲コップ八分目位の冷水に二瓦程を投じて攪拌し盛に泡の立つ中に飲むのであります。或は前に重曹だけ溶かして置いた水に酒石酸を加へて泡が立つと同時に嚥下しても宜しいのです。所謂胸がすくやうな心持のするものです。

耳の内の癤腫

春秋の季節には耳の内に癤腫の出來ることが少なくない、殊に女子に多い。而してこれは非常に痛いもので頭から眼や歯の邊までも響いて殆んど顔半分がウヅク。これが爲に氣も變になるほど苦惱して、殊に夜は痛が増して眠れぬものである。のみならず、これから延いて脳膜炎の症状を起して死亡した例さへもあるから、なか〱馬鹿にならぬものである。

然れば耳の内の癤腫は勿論専門の醫師に療治を頼むべきことで、素人療治をするのは愼むべきことである。それで此處には只豫防上の心得を述べて、斯樣な痛い目に逢はぬやうに、家庭に於ける注意を促がして置くまでのことである。

耳の内の癤腫も、外の癤腫と同じく膿を作らへる黴菌が皮膚から侵入して出來るものである。それ故にこれを防ぐには耳の内の皮膚を傷つけぬやうに、又不潔物を入れぬやうにすることが何よりも大切である。然るに普通の人のする所を觀ると全くこれと反對の事をする、卽ち耳垢を除くと稱して耳搔、束髪の「ピン」、小楊子又は「マッチ」の棒などを利用して、而かも唾液をつけて、痛みを堪へて眼をつぶつて耳垢を搔出して居る。卽ち耳の内に傷をつけ、其處に唾液の中に居る無數の種々の黴菌を塗りつける

のである。これは豫防どころではない、殊更に癤腫を製造する仕方である。耳の內の癤腫は男子よりも女子に多いと云ふのは、兎角「カンザシ」や「ピン」などで耳の內を惡戯することが、女子の方が男子よりも多いからではあるまいかと思はれる。次に耳の內を濫りに「スポイド」などを用ひて洗ふことも宜しくない、卽ち耳の內の皮膚を潤して軟かにすれば、黴菌が附きやすく、侵入し易くなるからである、子供等が水泳した後で屢々耳の內に癤腫を出來すのはこの理由である。耳の內を洗ふのは醫師が治療上特別の必要を認めた時にのみ用ふる方法で普通耳垢を除くに應用すべき方法ではない。それで耳の內が痒くて堪らぬやうな場合には細い棒の端に綿を纏いて、稀薄い「アルコール」又は「ブランデー」或は香水などをつけて靜に塗るのが宜しい。決して濫りに搔てはいけない。

それから耳がひどく痒い、又屢々癤腫が出來るのは糖尿病などが原因になつて居ることがあるから、小便の檢査が必要である、ある糖尿病患者は十七年間に二百八十二回耳の內に癤腫を出かしたと云ふ例がある。然し耳の內の癤腫は、糖尿病などはなくとも一體に再發し易いものであるから、充分治療を施さなければならぬ。

尙ほある藥物、例へば「ヨード」劑或は「ブローム」劑などを長く服用するときに癤腫の出來ることもあるやうであるから、此時には勿論これを止めなければならぬ。

結核病と狆と猫

從來、狆とか猫とか云ふ食肉の家畜類には結核はない、或は有つても甚だ稀なものと思はれて居りました。然るに近來の研究によつて見ますると、此等の動物も矢張結核に罹る、殊に都會に居る犬は屢々結核に罹るもので、カチオと云ふ人が歐羅巴の都會に於ける犬に就て檢査をした成績に據りますと、九%

即ち百疋の犬の内九疋は結核に罹つて居る、而してその内の四分の三は肺結核を患ひ、且つ大抵皮膚結核もあると云ふことであります。猫は犬よりも結核に罹ることが遙かに少なく、大約犬の三分の一位の割合だと申します。犬の結核は人間から傳染するのでありまして、街道、殊に客舍のやうな處で人間、即ち肺結核患者の吐き出した痰を舐る爲に傳染するのであります。日本の犬猫に就て斯樣な檢査をされたか何うか未だ聞き及びませぬが、若し檢査を致しましたならば、恐らく西洋の犬や猫よりも結核が多からうと想像されます。何故ならば日本人及び支那人は今日でも尚ほ平氣で往來や庭さきに痰を吐く、痰壺を廊下のやうな所に備附けて置いても、矢張そこには吐かずに、直ぐ傍の窓などから庭前に痰を吐くのを見受けます、殊に支那人は平氣なもので、卓に對つて話をして居ながら、往々卓の下の床板に唾をしたり致します。斯樣な有樣であるから、人間の間のみならず、犬や猫にも必ず傳染するものが多いことゝ察せられるのであります。

何れにしても結核の惡い病氣であること、及び結核は主に喀痰から傳染するものであると云ふことを汎ねく知らしめて、唾壺以外には決して外に吐出さぬやうにするのが、禮儀であり又公衆に對する德義であることを敎へなければなりませぬが、前述の如く犬や猫にも結核が有るものとすれば、此等の動物が病氣に罹り、殊に皮膚病があるとか、咳嗽をするやうな時には、手を以てこれを撫でさすることは危險である、特に小兒には危險であるから、これは家庭に於て注意すべきことであらうと思ひます。

僂麻質斯患者の心得

僂麻質斯と云ふのは非常に廣い病名で、從つて僂麻質斯に罹つた、或は罹つて居ると云ふ人も非常に多い。即ち他にこれぞと云ふ病氣も無くて筋肉に痛みがあれば皆僂麻質斯と一概に稱するのである。これ

は醫學上に於ても舊い病名で、種々の議論のあることであるが、今日の所では寒冷及び氣候の具合で筋肉それに繋がつて居る腱及び筋膜に痛の起るものを特に筋僂麻質斯と稱して、傳染病や物質交換機能の障碍から來る疼痛、又は筋肉そのものゝ病氣で起る疼痛は取除けられた。此處に云ふ僂麻質斯と云ふのもその意味で、氣候の影響に由て筋肉に疼痛の起るものを指すのである。

僂麻質斯の原因及びその病理に就ては今日でも未だ餘り立派な說明がつかぬやうであるが、兎に角寒い目をすると起ると云ふことは事實である。それから季節の變り目に起る或は惡くなると云ふことも事實である。

急性のものと慢性のものとあつて、急性の僂麻質斯と云ふのは昨晩寢るときまでは何ともなかつたのに今朝起きて見ると頸が痛くて振向くことも出來ぬ、所謂頸をチチガへたなどゝ云ふのは是である。而して別にかまはずに置いても大抵一日か二日で治癒つて仕舞ふものである。慢性の僂麻質斯となると、背中が半分痛いとか、兩方の腕或は脚が痛いとか云ふ風に廣い場所に痛がある、而して肩が痛いかと思ふと今度は腰が痛いと云ふ風に時々痛み場所が變る、又なか〳〵治癒にくい、季節の變り目、天氣の模樣に由て始終痛が增したり減つたりする。多少熱の出ることもあり、幾分其處の筋肉が硬くなることもあつて、屢〻他の病氣と誤らるゝことがある。又反對に他の病氣に因る痛みを僂麻質斯と間違へることもある。殆ど何處にでも起る痛であるから無理はないことである。

斯樣な病氣であるから、生命には別條なしとするも本人に取つては隨分苦痛である。而してなか〳〵治癒らない、又素人も廣くこの病名を知つて居る所から、大抵手療治をやるのみならず、非醫者の廣告には必ず僂麻質斯治療の廣告がある。それで益〻害毒が甚しくなる。これが宜しくない事であるから、家庭衞生欄を拜借して少しく慢性僂麻質斯患者の心

得を書いた次第である。

先づ僂痲質斯の治療法は如何なものかと云ふと、第一に温熱療法、按摩療法、電氣療法、近頃では「ラヂウム」療法、氣候療法、注射療法及び藥物療法と云ふやうな種々の療法がある。何れも非醫者が素人をだますには誠に便利な方法である。然しこれは又適當に應用すれば何れも實際效驗のある方法である。

これを一々說明することは困難であるから、此處には自分で試みて宜いことゝ害になる事だけを掻撮むで述べることゝする。

第一に僂痲質斯の藥物療法としては如何なる藥を用ふるかと云へば主として「サリチール」酸及びその製劑である。實際これは妙藥に相違ないが、この「サリチール」酸の製劑と云ふものは又非常に種類が多い、例へば「アンチピリン」、「アスピリン」、「サリピリン」、「サロフエン」などは素人もよく知つて居る藥である。然るに此等を濫用しては中毒を起す。現に亞米利加あたりでは此の「サリチール」酸製劑に由る急性及び慢性の中毒が非常に多い。これは實に憂ふべきことで、決して自分で濫用すべきものでない、必ず醫師の處方に據らなければ害を招く。

それから「ラヂウム」、電氣、注射療法も醫師の手に依て行はるべきもので、自ら僂痲質斯と診斷をつけて、如何がはしい廣告などに釣られて、此方から治療を乞ひ、非醫者の餌となる如きは、考へある人のなすべき事ではない、正しい醫師が診察して必要と認めた時にのみ行はるべきものである。

次には温熱療法、これも今日では立派な理學的療法の原則に基いて熱砂浴、熱氣浴、電氣浴、その他透熱療法等が行はれて、著しい效驗があるが、温熱を應用することは不完全ながらも素人にも出來る、例へばその痛む處に温罨法を施すとか、熱い砂の内に身體を埋めるとか、熱湯浴をして汗を取るとか云ふことは昔から俗間に行はれて居た方法で、これは確かに相應の效がある無害の方法と云ふて宜しい。

殊に炭酸浴は效があると云はれて居るから試みて宜しい。その方法は、
普通の風呂桶の中に重曹を二百「グラム」位入れて十分かきまはし、病人を入れて置いて、それから粗製の鹽酸を少しづゝ氣をつけて三百「グラム」ほど加へるのである。さうすると炭酸を遊離して、それが作用するのである。
又重曹即ち重炭酸曹達百に重硫酸曹達百四十の割合に加へても宜しいのである。
次に按摩法、これも昔から行はれて居る方法で、適當な方法である。必ずしも西洋流の「マッサージ」でなくとも宜しい從來の日本按摩で結構である。
氣候療法としては温暖で日當りがよく、餘り風に曝らされない土地に轉地する、温泉場ならば更に妙である、豫防の目的には海濱又は山間に轉地する。
最後に看護攝生法としては暖かい「フランネル」のやうな襯衣を用うることが必要で、寒い季節には特に毛織物を著る方が宜しい、但し餘り地質が厚過て空氣の流通を絶つやうではいけない。
急性の場合には「アスピリン」の如きものを服用して、その痛む部分を熱湯に浸して固く絞つた「タオル」で罨法すれば大抵それで治癒し或は緩解する。痛みのあるときは冷水療法を行ふては害になる。但し痛みが無くなつた後で、強固法を行へば再發を防ぐ效能がある。痛みの無くなつた後には海水浴をさせるのも宜しい、然しこれも貧血して居るもの、元來虚弱なもの、又心臟や血管に故障のあるものには禁じなければならぬ。

抄録

高松市虚弱兒童避暑保養所成績

手塚校醫調査　（大日本私立衛生會雜誌第三百八十九號）

高松市に於ては兒童體質改良の目的を以て虚弱兒童の爲に夏期休業期間中避暑保養所を開設したるは大正元年度にして今回はその第三回なり、本年は市立各小學校の虚弱兒童全般に及ぼさんとの計畫なりしも不幸にして經費の都合上虚弱兒童全部を包容し能はざりしは遺憾とす。

一　兒童避暑保養所規定

第一條　高松市内小學校兒童の體質を改良し兼て結核豫防の一助と爲さんため各校聯合して本年八月一日より三十日迄栗林公園内に兒童避暑保養所を設く。

第二條　保養所に收容すへき者は聯合小學校兒童中左記諸項の一に該當するものとす。

一、腺病質のもの。
二、呼吸器系薄弱又は胸圍異常過少のもの。
三、慢性腸胃病を有するもの。
四、榮養不良のもの。

第三條　前條の收容患者は本年四月の學校身體檢査に於て體質薄弱と診定したる者及學校醫に於て特に保養の必要を認めたるものに就き保護者の希望により之を定む。

但し疾病者にして特別の保護を要するもの又は傳染の虞あるものは收容せさるものとす。

第四條　保養所に於ては左の事項を實施す。

一、新鮮なる空氣に接觸せしむること。
二、滋養物を攝取せしむること。
三、適當なる運動をなさしむること。
四、必要なる安靜を保たしむること。
五、精神的慰樂を與ふること。
六、適度の學習をなさしむること。
七、健康診斷及身體檢査を行ふこと。
八、簡易藥局を設け必要の手當を施すこと。
九、入浴せしむること。

第五條　保養所に左の役員を置く。

幹事長　一名　幹事　若干名
專任醫　一名　監護員　若干名

第六條　幹事長及幹事は保養所に關する事務を處理す。
專任醫は每日出所して健康診斷身體檢查及食事運動に關する指揮をなし且其他の衞生事務に從事す監護員は醫師及ひ幹事の指揮を受けて兒童往復途上の保護學習運動の指導竝に入浴の世話等に任す。

第七條　幹事は聯合小學校長及主事之に充り幹事長は幹事互選となし專任醫は手塚校醫に委囑し監護員は聯合小學校敎員之に充る。

第八條　本保養所經費中薪炭油代及雜費は聯合小學の負擔とし其他の經費は收容兒童の分頭負擔とす。

第九條　兒童の分頭負擔金は保護者より前納し開所中缺席するも割戾をなさす。
但し病氣其他の事故により保養所の許可を得て退所したるものは其幾分を割戾す。

第十條　保養所は希望兒童數五十人に滿たさるときは開設せす。

二　兒童避暑保養所施行要領

一、保養所の位置は粟林公園内日暮亭及扇ヶ原附近の二ヶ所とし扇ヶ原には天幕又は小屋掛をなして事務所炊事場等に充つ。

二、每日の行事大要左の如し。

1	朝　會（點呼、訓示、深呼吸）	午前七時より
2	朝　食（麵麭、牛乳）	同七時廿分より
3	安　靜（唱歌、靜坐）	同七時四十分より
4	學　習（科目時間割等は學年に應して別に之を定む）	同八時より
5	運　動（體操又は團體遊戲）	同九時より
6	安　靜（散步手戲又は自由談話）	同十時半より
7	晝　食（飯、肉類、煮菜、漬物）	同十一時より
8	安　靜（午睡、散步）	同十一時半より
9	健康診斷身體檢查（診斷は隔日檢查每五日又十日）	午後零時半より
10	間　食（落花生又は葛湯果物等）	同二　時
11	娛　樂（談話會自由遊戲學藝會）	同二時より
12	日　誌（尋常四年以上其他は自由遊戲）	同四時より
13	入　浴（東門外カルヽス溫泉にて）	同四時半より
14	簡易夕食（握飯、漬物）	同五時半より
15	解　散（點呼、檢閱、解散）	同　六時

三、收容人員は約百名とす。

四、遠隔兒童の出所退所は監護員引率するものとす。

五、兒童食物は專任醫に於て其榮養分を考へ且炊夫長の意見を聞き每五日間の獻立表を作りて實施するものとす。

六、本所の經費豫算は左の如し。

收入

一金六百四拾圓　收入總額

　內

金六百圓　保護者負擔金兒童一人平均六圓

金四拾圓　聯合小學校負擔

支出

一金六百四拾圓　支出總額

　內

金五百五拾貳圓　食費一人一日十六錢兒童百人役員雇人小使十五人計百十五人三十日分

金拾五圓　薪炭油代

金五圓　入浴料

金五圓　食器代

金拾壹圓　小屋掛代

金貳拾七圓　雇人給料　炊夫一人一日五十錢一人　炊婢一人一日二十錢二人

金貳拾五圓　雜費

經費決算書

本所豫算は前項の通りなるも實際の經費決算は收容兒童の實數少なきと中途退所したるものあるとにより左記の經費を要せり。

收入

一金四百七拾六圓四拾錢　兒童八十三人一人前六圓づゝ

但し相當理由の下に中途退所し割戾をなしたるもの五名あり。

支出

一金四百七拾八圓八拾貳錢　支出總額

　內

金參百七拾六圓九拾參錢七厘　食料品

金拾四圓貳拾壹錢五厘　薪炭費

金貳拾圓四拾錢　設備費

金四圓八拾錢　雜品

金六拾貳圓四拾六錢九厘　雜費

收支計算差引

金貳圓四拾錢　不足

本事業に於ける役員は凡て無報酬にて盡力せられしことを特に附記す。

三　兒童避暑保養所の效果

避暑保養所の效果は大要前年と異ならず即ち

1、體質を强壯ならしめしこと。

2、榮養を善良ならしめしこと。

3、呼吸器の薄弱なるもの又非傳染性疾患を輕快强壯ならしめしこと。

4、體量を増加せしめしこと。

5、食物を増進せしめしこと。
6、胸圍を増加せしめしこと。
7、精神を快活ならしめしこと。
8、元氣を増進せしめしこと。

四　收容兒童人員表（略）

五　體重增減

體重は槪して增加せり、其の増加量は左表の如し。

第三表　甲年齡別體重增減表（男兒）（略）。

第三表　乙年齡別體重增減表（女兒）。

上表に由りて避暑保養所收容中に於ける一ヶ月間の體重增加量と閉鎖後一ヶ月間に於ける增加量の割合は却て夏期熾烈なる時に於て體重增加の著しきことは避暑保養所の效果の著大なることを示す。

尙九月末に於ける高松市全小學兒童の八九兩月間に於ける體重增加量との比較表を示せば次の如し。

第四表　避暑保養所收容兒童と全市小學校兒童との平均體重體重絶對發育比較表（略）

以上の表に由りて見れば尋常科男兒に於ては著しき差異を認めざるも女兒に於ては大に優れるを認め況んや體質虛弱なるに於てをや高等科男女兒に於ては大に劣れり之れ境遇の然らしむる所には非らざるか。

六　胸　圍

胸圍も亦大體に於て增加せり而して避暑保養最終日には胸圍の測定は余の任務なりしが不幸にして家族に急病ありしため避暑保養最終日の計測をなすことを得ざりしは遺憾なりとす從つて玆には避暑保養所開始後第三週日の計測量を示し以て報告の材料とせり。

第五表　甲兒童保養所年齡別胸圍增減表（男兒）（略）

第五表　乙年齡別胸圍增減表（女兒）（略）

本表によりて胸圍も亦體重と同一の關係を現はすことを知るべし。

尙左に高松市立全小學校兒童の九月末に於ける平均胸圍と比較對照を示さん。

第六表　避暑保養所收容兒童と全市小學校兒童との平均胸圍絶對發育比較表（略）

以上の表に由りて全市兒童絶對發育量に劣りたるを認めず卽ち虛弱兒童にして尙は此結果を呈するは以て避暑保養所の效果の著大なるを知るに足る可し。

反齒も矯る

ドクトル　濱木美彦述（中央新聞）

一般の人は醜い亂杭齒などが立派に矯正るものとは知らない、殊に婦人等は性來自分の顏がお粗末なのだと頭から悲觀して居るらしい、何人も知る如く顏面の下半部に實に齒列に依つて左右さるゝも

のである、處が學術の進步した今日では此悲觀は殆ど無用となつた最近の學術は之れを巧に矯正する尤も年を老つてからは何うも思ふやうな結果は得難いが子供の齒牙の交換期に親が注意さへすれば美人は幾らでも出來る譯である、齒の惡くなる原因は鼻腔に病氣があつたり扁桃腺に故障があつたりするからで、能く世間で口が開いて居るものがある其の人は鼻で呼吸が出來ないからで、其等は非常に齒列に關係する、殊に小兒の發育時期に於てさう云ふ病氣の起つた際には一層齒列に影響する反齒の大部は口の呼吸に原因するのである子供は自分では氣が附かないから養育者は始終周到なる注意を怠つてはならぬ、而して不幸齒列が惡くなつた場合には成る可く早く矯正せねばならぬ、夫れは八九歲から十一二歲迄が一番宜しい、併し夫れより遲くとも十八九歲迄は十分矯正の見込がある。三十歲を超えては滿足なる結果は覺束ない、技術は素より非常な進步を示して如何なる齒でも自由に動かすけれども、齒列を矯正するのは機械を用ゐて齒を骨の中で動かすので、此の齒を動かすと一方に於ては骨が吸收され又一方に於ては新しい骨が出來て空隙を補塡し動かした處に其の齒が固定されるのである、處が其の新しい骨が出來ると云ふことは發育の最も盛んな時代でないと完全に行はれない從て子供の時代には骨が柔軟で、齒を動かすのも樂であるし、動かした後で新らしい骨の增生が滿足に行はれるが、年を老ては骨の增生は尠くなる、故に矯正術を行つても滿足なる結果を得ることが尠いのである要するに不整狀態が單純な中に矯正して置けば顏の形も醜くならずに濟み一面齒牙を健全にすることが出來て身體の健康にも重大なる利益を及ぼすのであるから決して輕々に看過すべきでない。

虱の豫防法

アイセルト述（治療新報）

近來、虱が發疹窒扶斯の如き傳染病の媒介をなすものなること明かになりたるより、その豫防及び驅除法につき種々の實驗報告あり。獨逸のアイセルト氏はこの目的に硫黃を應用せり。その說は左の如し。

硫黃は無臭なれども人類の皮膚分泌物に觸るれば、徐々に硫化水素に變じ、昆蟲の微妙なる嗅器を刺戟し、これを驅除す。同氏はこの理により沈降硫黃を用ひ虱の驅除を企てたり。

卽下衣を翻しこれに硫黃をすり込み、毛の肌衣には食匙に二杯の末を盛り、一杯は前面に一杯は脊面に少量は肌衣の袖及び下「ツボン」の內面に刷毛を以てすりこむ。

今この衣類を着けたる患者に觸るゝには着衣後少くとも二十四時間たるべし。これ硫黃は汗がこれに永く作用して始めて效果を生ずる故なり、從て沈降硫黃を用ふる場合ある時間を經過したる後漸く虱は驅除せらたたるなり。

尙ほ南京蟲、蚤、刺針を有する雙翅昆蟲等も同法により恐嚇し得べ

し。
硫黄は「ナフタリン」、「エーテル」油等が速に揮發し從て多量を要ししかも惡臭あり高價なるに對し、一週間位もその效力を維持し皮膚を少しも刺戟せざる良劑なり。
ガレウスキー氏は「ベルガモット」油、「ナフタリン」を用ひたり其說に曰く。
最良は「ベルガモット」油一〇・〇、三〇%の古蒲丁幾九〇・〇混液にして、これを身體及び衣服にすり込む、又は絨毛製の小囊を時々この液にて濕し懷中す、但この法は聊高價に過ぐ、故に軍隊兵卒、囚人等の治療には各自に「ナフタリン」入りの嚢を携へしむるか、又は衣服に「ナフタリン」を注ぐ、その他靴下及び「ヅボン」に十五%の「ナフタリン」末を撒布し、倘身體にも紛末をぬる。
著者は軟膏を好まず。これ汚く且つ衣服より虱を驅逐し得ざればなり。

雜報



○日本赤十字社の獻納品

來る十一月御卽位の大典を行はせらるゝに就き、日本赤十字社は其の創立以來皇室御保護の下に立ち、常に優渥なる恩眷を蒙りたることゝて、奉祝の微衷を表せんが爲めに社員百八十萬人を代表し、謹みて賀表を奉呈し　天皇陛下に屛風壹雙　皇后陛下に硯筥、文臺各一個を獻納することに決定し、此程各支部に其の旨通達したりと。

○遣外赤十字救護班引揚延期

日本赤十字社より各國に派遣せる救護班は、何れも疾くに豫定の期間を經過し一旦延期したるが、歐洲の戰雲今猶ほ收まらず、現に其の必要あるを以て、今十月歸朝の筈なりし露國派遣の一行は明年四月

迄、又來る十二月引揚ぐべき英佛兩國派遣の救護班も同樣、亦た延期するに決し、此の程本社より夫々通達したりと。

○學生の腸寄生蟲

金澤醫學專門學校敎授林篤氏は昨年以來石川縣師範學校生徒、同校附屬小學校兒童及び同幼稚園の全部七百五名の糞便檢査を行ひ今回その成績を發表されたり、卽ち左の如し。

幼稚園兒　檢査人員三十五名
男二十名中蟲卵を認めし者
蛔蟲一種二名(一〇%)
女十五名中同上
蛔蟲一種二名、鞭蟲一種一名、計三名(二〇%)

尋常科兒童　檢査人員三百十七名
男百八十名蟲卵を認めし者六十六名(三六・六%)
女百四十九名中同上五十六名(四〇・二%)
右内譯
男　一種の卵を認めし者蛔蟲三〇、鞭蟲二七、十二指腸蟲一
二種の卵を認めし者蛔蟲及鞭蟲八
女　一種の卵を認めし者蛔蟲三五、鞭蟲一七、十二指腸蟲二
二種の卵を認めし者蛔蟲及鞭蟲三

高等科兒童　檢査人員九十二名
男三十一名中蟲卵を認めし者十六名(五一・六%)
女六十一名中蟲卵を認めし者三十二名(五二・六%)
右内譯
男　一種の卵を認めし者蛔蟲一〇、鞭蟲三
二種の卵を認めし者蛔蟲及鞭蟲二、十二指腸蟲及鞭蟲一
女　一種の卵を認めし者蛔蟲二一、鞭蟲四、十二指腸蟲一
二種の卵を認めし者蛔蟲及鞭蟲四
三種の卵を認めし者蛔蟲、鞭蟲及十二指腸蟲一

本科第一部生徒　檢査人員二百五十九名
卵を認めたる者二百一名(七七・六%)
右内譯
一種の卵を認めし者蛔蟲四二、鞭蟲七〇、十二指腸蟲三
二種の卵を認めし者蛔蟲及鞭蟲七八、蛔蟲及十二指腸蟲二
三種の卵を認めし者蛔蟲、十二指腸蟲及鞭蟲一、蛔蟲、鞭蟲及擴節裂面條蟲一

斯の如く十二指腸蟲、條蟲の如き有害の寄生蟲を有するものありて、此等の生徒は寄生蟲を有することを知らずして、自らは神經衰弱症に罹れりとなし或は醫師より神經衰弱の診斷を下されたるものもあり、兎に角驅除を要することとなるが、生徒の體格檢査に際し腸寄生蟲の有無をも檢して適當の驅除法を行はしむるは、望ましきことなれども、現時の狀況

にては困難なるべし。

○京都結核豫防協會の事業

京都結核豫防協會にては其の事業として左の項目に從ひ順次これを實行することゝなれりと。

一、豫防法攝生法等を通俗的平易に記述して配布し又は新聞紙等に登載を託する事
一、患者及死者の消毒法を勸誘する事
一、小說、脚本、唱歌、繪葉書等の類を編纂發行する事
一、結核に關する統計を作製する事
一、衣食住に關する諸般の調査を爲す事
一、法律規則等の調査並に獻策を爲す事
一、財源（例之ば疾病金庫、國庫又は自治團の補助、義捐金等の類）の調査を爲す事
一、結核に關する圖書器具を蒐集し其陳列館を設け又は巡廻展覽會を催す事
一、講話會を催し可成幻燈活動寫眞蓄音器等を應用する事
一、學校訓話教科書說教演劇講談等をも利用して結核に關する知識を普及せしむる事
一、前項の當業者に對し結核に關する講習會を開く事。
一、療養所檢査所嬰兒檢診所海濱又は林間學校等の模範的建設を爲す事
一、結核に關する相談所を設くる事
一、結核患家の幼兒を里子に出す周旋方法並に給乳所を設くる事
一、各地の結核豫防團體と聯絡する事

○精神病者救治會の美舉

岡田醫學博士夫人等の盡瘁に依る精神病者救治會にては來る可き御大典を期として花の日會に合同し、造花十萬個の製作方を引受け、目下巢鴨病院に於て入院患者並に看護婦をして之を製作せしめつゝあるが、花の日當日の賣上高の中貳千圓を割きて、醫科大學內敷地に曩日下賜せられたる饗場殿の木材を用ゐて建設すべき精神病科病室の工費に充つる筈

なりと。

廣告

○私立大日本婦人衛生會例會

十月二日午後一時半より神田區共立女子職業學校内に於て例會を開けり、同校生徒の一部及び役員會員約二百名出席、直ちに講話を開始し、第一席には醫學士田中貫一氏「齒牙交換期に於ける二三の注意」と云へる題にて、普通等閑に附せられ居る小兒の齒の衛生につき、極めて平易に生理、病理の解釋説明を與へられ、裨益さるゝ所多かりき。次に二木博士は「飲食物に就て」と題し、文化史上より西洋人と日本人との風俗習慣の相異を説き、從つて飲食物にも自ら其宜しき所ありて強ふべからざる事を述べ、今日の吾々の日常食には種々の誤れる點あることを説明されたるが、尚ほ一回に述べ盡す能はざるを以て、次回に讓りて詳細の講話をなすべしとて壇を下られたり。これにて例會を閉ぢ、階下の別室に於て暫く歡談の後散會したり。當日の出席役員の姓名は左の如くなりき。

鍋島會長	鳩山春子	長谷川仲子
小川孝子	小松いさ子	田村靖子
菊地みね子	宮本樂子	濱田捨子
緒方悦子	山口貞子	岡田德子
山本多穗子	天野多喜子	丹羽貞子

（以上出席）

○入會

○小川孝子氏紹介

●牛込北山伏町四　特別會員　鈴木かず子

○資格變更

●通常ヲ特別ニ　岩永さご子

私立大日本婦人衛生會役員氏名

總裁　東伏見宮妃周子殿下
會長　侯爵夫人　鍋島榮子
副會長　男爵夫人　濱尾作子

（いろは順）

幹事　鳩山春子　　同　長谷川仲子
同　岡田德子　　同　高木鍱子
同　山本多穗子　　同　三浦敬子
同　松平芳子
評議員　石川貞子　　同　羽田三緒子
同　濱田捨子　　同　服部繁子
同　仁禮壽賀子　　同　四竍子
同　土肥多越子　　同　緒方悅子
同　岡山とし子　　同　小川孝子
同　男爵夫人　加藤鈴子　　同　片山龜子
同　丹波貞子　　同　高橋孝子
同　田村きよ子　　同　鶴原誠子
同　男爵夫人　南部隈子　　同　中濱芳子
同　山口貞子　　同　子爵夫人　松井正子
同　古市幸子　　同　小松いさ子
同　伯爵夫人　阿部篤子　　同　天野多喜子
同　岸澄子　　同　菊池米子
同　三宅藤子　　同　宮本樂子
同　宮下吹子　　同　守屋千代子

婦人衛生雜誌代價及廣告料

代價

一冊	定價金貳拾錢	郵税壹錢
三冊（三ケ月分）	前金郵税共	金四拾五錢
十二冊（一ケ年分）	前金郵税共	金壹圓八拾錢

廣告料

一頁　六十二行　一行二十三字
壹頁　金五圓　半頁　金貳圓五拾錢
○特別廣告　壹頁金拾四圓　半頁金五圓
○半頁以下行數ヲ以テ計算スルモノハ一行貳拾五錢

規定

○本誌購讀申込ノ節ハ前金三ケ月分以上本會事務所宛ニ送附セラルベシ但シ見本ハ郵券ニテ貳拾壹錢代用苦シカラズ○本誌休讀ノ節ハ速カニ報知セラルベシ通知ナキ分ハ購讀者ト見做ス但シ後金ニハ割引ナシ○轉居ノ節ハ新舊宿所通知セラレタシ

大正四年十月二十二日印刷
大正四年十月二十五日發行

編輯者兼發行者　東京市本郷區根津西須賀町九番地　莊司秋次郎
印刷者　東京市本郷區駒込林町百七十二番地　田中猶藏
印刷所　東京市本郷區駒込林町百七十二番地　杏林舍

發行所　東京市麴町區富士見町二丁目三十二番地　私立大日本婦人衛生會事務所

賣捌所
東京市本郷區龍岡町　吐鳳堂
同市銀座四丁目　東海堂
同市京橋區鎗屋町　良明堂
同市本郷區本富士町　明文館
同市同區春木町　南江堂支店
京都市寺町二條南入　若林茂一郎
東京市日本橋區呉服町　北隆館
同市神田區表神保町　東京堂
同市本郷區本富士町　盛春堂
名古屋市榮町六丁目　丸善書店

ラクトスターゼは有力なるブルガリアン乳酸菌製劑にして之を服用すれば腸内に於ける有害細菌の發育を阻止し或は之を滅殺して異常の腐敗醱酵を防ぎ便通を整理す故に自から新陳代謝順調となり老衰を豫防し能く多數疾病の禍原を除去す

優秀完全なる乳酸菌製劑

ラクトスターゼ LACTOSTASE

(說明書進呈す)

適應症‖腸の疾患就中腸加答兒、盲腸炎、腸狹窄症、常習便秘、小兒の腸不消化及綠便、下痢、腸結核●腎及肝の諸症●腸内生産毒素の吸收又は排泄の不完全に因する種々の皮膚病●貧血●早老●動脈硬化並に蛋白質含有食品多食の要ある諸症

用量。一回〇・三乃至〇・四瓦宛(錠劑一回用量二個宛)一日三回食後直ちに服用小兒は約半量とす。

定價。内服用粉末十四瓦金八拾錢、廿八瓦金壹圓五拾錢、同錠劑五十錠金五拾錢、アイロン六瓦金拾貳錢、膣球六球金六拾五錢十二球金壹圓廿錢。

乳酸菌膣球

(ラクトスターゼ膣球)

生活乳酸菌を以て作られたる膣球はデーデルライン氏膣桿菌と同一の作用を膣内に呈し有害なる微生物の繁殖を防ぐを以て其應用は能く子宮及膣の諸疾患殊に白帶下症、子宮頸管炎、分泌過多、分泌物の惡臭、老人膣炎等に偉効有り。

用法。膣球は臨時膣内に挿入す其使用前後に膣の洗滌を行ふの要なし。

發賣元　東京市室町　三共株式會社

婦人衛生雜誌第三百十二號(大正四年十月廿五日發行)　明治四十三年十二月一日第三種郵便物認可〔毎月一回廿日發行〕